

垢 憎 負已上同

〔書言字考節用集八言辭〕屈辱ハチイセツ 耻ハハツカシム 辱ハハツカシム 忝ス、ク、ハチナ 雪恥ハハツカシム 耻ハハツカシム 愧ハハツカシム 羞ハハツカシム

〔倭訓栞前編二十四〕はぢ 耻辱、又慙をよめり、万葉集にはづともはたらけり、靈異記に媿もよめ

り、はぢをす、ぐは、雪耻と書り、韻會に雪は洗也と見えたり、埃囊抄に含媿をはぢしらふとよめり、はぢるふ、はぢかはしなどいふも同じ、耻を與ふるを、はぢ見するといふは古語也。

〔伊呂波字類抄知字〕耻辱チシヨク

〔書言字考節用集九言辭〕慙チシヨク 愧チシヨク 作罪發露向人為愧、詳他 滯他 榮他 經他

〔伊呂波字類抄知字〕赭面シヤクメン

〔下學集下態〕赭面シヤクメン 義赤面

〔慎思錄二〕人之在世也、可耻者五、寒餓之士、轉死于溝壑者、不與存焉、為人子者、不孝而不順父母、一可耻也、為人臣者、居其位而素餐、且不死節、二可耻也、為民之父母、而不能養其民、三可耻也、學而不能知道、四可耻也、知而不能行、五可耻也。

〔隨意錄四〕俚諺嘗不知辱者、曰顏皮千枚粘、彼方古人猶有此言、開元天寶遺事云、唐進士揚光遠者、惟多矯飾、不識忌諱、遊謁王公之門、于素權豪之族、常遭有勢撻辱、略無改悔、時人多鄙之、皆曰、慙顏厚、如

十重鐵甲也、是也。

〔古事記上〕於是伊邪那岐命、見畏而逃還之時、其妹伊邪那美命言、令見辱吾、

〔日本書紀二神代〕一書曰、略、中、皇孫謂姉為醜、不御而罷、略、中、故磐長姬大慙而詛之、曰、略、下

〔古今和歌集十九〕題しらす

世中はいかにくるしと思らんこ、らの人にうらみらるれば

〔源氏物語六末摘花〕ふり捨させ給へるつらさに、御をくりつかふまつりつるは、

在原もとかた